

■ 令和7年度（2025年度）北海道美唄養護学校 第2回学校運営協議会

○ 日時 令和7年（2025年）11月27日（木） 9時55分～11時30分

場所 北海道美唄養護学校 会議室

委員の出席：前頁参照 事務局出席：事務長・教頭・各学部主事・寮務主任

ア 辞令交付

イ 委員・事務局の紹介（自己紹介）

ウ 各学部の教育課程及び教育活動（各部主事）及び寄宿舎の生活について（寮務主任）

・各部の地域の教育力を活用した学習活動

外部講師の活用～アルテピアッツァ美唄職員によるキャンドルづくり

活動の積み重ねによる成果の拡大⇔イベント開催のため多数制作の必要性（双方に有益）

地域の施設利用～事前の打ち合わせからの御配慮・御協力

移動手段の提供～市民バス・美唄市教委のバスの利用（支援）

作業学習等の資材や技術指導の提供

キャリア教育～職場見学・職場体験等

防災教育～段ボールベッドの設置や簡易ベッドの体験（市防災コーディネーター）

寄宿舎～生活の場としての地域を感じる機会の設定（商業施設・温浴施設の利用や地域のサークルなどとの交流）

・地学協働推進組織との連携による教育活動による地域への貢献

少子化による人材確保の困難化～特別支援学校の児童生徒を地域貢献の担い手に

「ありがとう」と言える人、言われる人の育成～地域とwin-winの関係づくり

「防災教育」を地学連携のきっかけに

・地域の方々への学習の成果を知っていただける機会を有効活用

市民ふれあい祭り等での掲示物や作品展示による紹介

～週末開催のため、児童生徒の実際の参加が難しい。

町内会解散による地域のコミュニティとしての役割を担えないか

～避難所として使用するとき、学校などの施設を初めて目にするよりも少しでも知っていることの大切さ・普段からのつながりを大切にしたい。

～協議会に地域住民代表として町内会の方々も加えたい。

～集落支援員（総務省事業）の活用（美唄市18名）

・地域としては、学校側からの依頼があると関わりやすい。

・私が以前勤務していた中部地方では、防災教育が特別支援学校でも非常に重視されていました。学校が避難所として利用されることを踏まえると、地域の方々に施設を知ってもらい取り組みはとても重要だと思います。こうした活動を授業に組み込むことで、防災の意識を高めるだけでなく、児童生徒にとっても実践的な学びの場になるのではないのでしょうか。

・知的障害教育の現場では、「各教科等を合わせた指導」について、さまざまな考え方があります。各教科等を合わせた指導には、児童生徒の生活や学びの文脈に沿った学習活動を構成・展開しやすいという特徴があります。授業では、知識を教えるだけでなく、体験を通して理解を深める工夫が求められます。

・美唄市で今年度「地域おこし協力隊」発足。移住者に対する支援を考えているが美唄養護学校とのつながりもコーディネートできたらと考えている。

・美唄市教委、JAで「農業科」と銘打って学校に農家が訪問して支援している。ぜひ養

護学校も仲間入りしてつながりをもちたい。

○ 校長謝辞・閉会